平和記念だより 80

2021年7月

◆編集・発行/高松市市民政策局人権啓発課　高松市平和記念館
◆連　絡　先/高松市松島町一丁目15番1号　たかまつミライエ5階
〒760-0068　TEL(087)833-2211　FAX(087)833-2244

高松空襲写真展

1945（昭和20）年７月４日未明、高松は米軍による空襲を受け、旧市街地の約８０％が焦土と化し、1,359人もの尊い命が失われました。高松市平和記念館では、毎年７月４日を含む期間に高松空襲の惨状を伝える「高松空襲写真展」を開催しています。今年度は６月２５日（金）から７月5日（月）まで、平和記念館映像学習室において開催しました。香川県立高松高等女学校(現・高松高等学校)屋上から各方面を撮影した写真パネル、空襲後の栗林公園北門付近を描いた絵画などを展示しました。

高松空襲写真展の様子

テレビや新聞など、メディアによる紹介もあり、ニュース映像や新聞記事をご覧になって来場された方が大勢いました。空襲を体験した来場者の方々から、「片原町から屋島に逃げたが、空襲が終わって、二日後に帰ってきたとき実家は焼けていた。」「空襲のとき、消火活動をしたが何の役にも立たなかった。」「国民学校４年生のとき、学校の防空壕を作るためにみんなで山へ木の伐採に行った。」など空襲当時の様子や戦時中のことについて貴重なお話を聞くことができました。ご来場の皆様、ありがとうございました。

高松空襲写真展
来場者アンケートより
ご協力ありがとうございます！

当時、林町から線路を歩いて空襲の跡を見にきた。展示されている写真は忘れられない風景だ。ここへ来られない同級生やいとこに写真を撮って見せたいと思う。（90歳男性）

父親は特攻隊だったが、終戦になったため出征しなかったので自分が生まれた。父親は飛行機から落ちる夢を見て夜中に目を覚ましていた。母親は天神前で空襲にあった恐怖の体験を話していた。展示されている絵などを見て、両親から聞いた話を思い出し、涙が込み上げてきた。
（60代女性）

平和学習(こども未来館学習)

令和３年度の「こども未来館学習」がスタートしました。「こども未来館学習」は、高松市の小学４年生(一部中学生)を対象として、たかまつミライエの各施設を活用して行う学習活動です。学習内容は、プラネタリウムを使った天体観測、科学実験、図工・美術の製作活動等です。「平和学習」もその中の一つです。平和記念館の展示物や資料、映像等を使って「高松空襲」「戦時下のくらし」について学びます。

平和記念館では、今年度もより一層の充実をめざして、教材研究や学習の準備に取り組んでいます。平和学習を通して大勢の小学生の皆さんと出会うことを楽しみにしています。

平和学習に取り組む小学生

平和映画☆上映会のお知らせ

平和記念館映像学習室において、次のとおり平和映画を上映します(無料)。

「手記（空襲）」（22 分）

日　時▶ ７月 10 日～7 月 18 日の土･日、午後１時上映開始

解　説▶ 「高松空襲」を経験した９名の方の手記や聞き取った内容を編集したもの。降り注ぐ焼夷弾、逃げ込んだ防空壕でのやりとり、家族を荼毘(だび)に付す様子など、それぞれが経験した「７月４日」 が語られる。手記をもとに絵画で再現した映像がそのありさまを忠実に伝える。製作は「高松空襲を子どもたちに伝える会」。

「チョッちゃん物語」（80 分）

日　時▶ ７月 22 日～8 月 29 日の土･日･祝日、午後２時上映開始

解　説▶ 原作は黒柳朝さん(黒柳徹子さんの母)。昭和１６年、迫りくる戦争の影におびえながらも幸せに暮らしていた「チョッちゃん」一家。しかし、長男の病死、夫の召集など、悲しい出来事が重なる。戦後も、疎開先の洪水や、焼け野原になった東京での暮らしなど、苦難は続く。そのような中でも、家族のきずなを大切にして、明るくたくましく生き抜いた黒柳朝さんの自叙伝をもとに、「平和の大切さ」「生命の尊さ」を描いた長編アニメーション。

「おかあちゃんごめんね」（26 分）

日　時▶ ９月４日～9 月 26 日の土･日･祝日、午後１時上映開始

解　説▶ 物語の舞台は大阪の堺市。「絹ちゃん」は、病弱なお母さんと小さな弟「みち坊」と３人暮らし。昭和２０年７月１０日、堺の街を Ｂ２９の大編隊が襲う。力尽きて動くことができないお母さんは、二人の子どもを逃がして、自分は炎の迫る家にとどまった。当時、６歳だった浜野絹子さんの体験をもとにした人形アニメーション。

※　都合により、上映作品･期間等を変更することがあります。

▼今後の行事予定▲

7月

● **高松市戦争遺品展**

期　日　令和３年７月１３日（火）～７月１９日（月）
場　所　瓦町 FLAG２階　コンコース
内　容　高松空襲と戦争に関する写真・パネル・資料を展示

8月

● **原爆写真展　～SDGs 未来に向かって平和と公正な社会を～**

期　日　令和３年８月５日（木）～８月１１日（水）
場　所　瓦町 FLAG8 階　IKŌDE 瓦町展示コーナー
内　容　原爆関連資料と SDGs に関する資料を展示

● **教職員のための平和教育講演会**

期　日　令和３年８月１９日（木）
場　所　たかまつミライエ　部屋については未定
内　容　講演「高松空襲の体験について」池田　實 さん
「平和学習」の説明

2月

● **高松市戦争遺品等収蔵品巡回展**

期　日　令和４年２月２６日（土）～３月２１日（月・祝）
場　所　石の民族資料館(牟礼町)
内　容　市民の皆様から寄贈された戦争遺品を中心に展示

● **平和を語るつどい・憲法記念平和映画祭**

期　日　開催時期未定
場　所　未定
内　容　絵本朗読「柞田(くにた)飛行場」
映画「あの日のオルガン」

※　新型コロナウイルス感染症の拡大などの状況により、開催を中止・延期する場合があります。

収蔵品紹介70

町内会設立報告書等

寄贈者　　中浦　順一 様

高松市木蔵町(現扇町愛宕神社から戎神社辺り)の隣組資料。町内会設立報告書、町内会規約、隣組全図、会員名簿、総会決議録がある。設立は1940(昭和１５)年 11 月 25 日。設立報告書には、組織戸数 114 戸、隣組数 14 組とあり、各組長の職業や氏名も記載されている。隣組全図には各戸が隣組ごとに色分けして表記されている。

寄贈者は、愛宕神社の総代であった知人からこの資料を譲り受け、これまで保管していた。高松空襲の際、この辺りは戦火を免れたため被災者が殺到し、愛宕神社には石畳の参道沿いにむしろやトタンなどの材料で建てられた住まいがひしめいていたそうである。

平和記念館「最近の寄贈品」コーナーで展示中

戦時用語解説 62

町内会・隣組

【読み】ちょうないかい・となりぐみ

【分類】戦時中の社会

1940(昭和１５)年、戦争を後押しする国内の力をより強くするため、全国的に町内会が整備され、その下に１０戸から２０戸を一つの単位とした隣組が置かれた。1943(昭和１８)年には、法律に町内会が明文化され、町内会・隣組は、戦争を続けていくための役所の仕事と住民の日常生活とのかかわりについて、重要な役割を担うことになった。

隣組を通じて、政府や軍部の方針伝達、生活物資の配給、国債の割り当て、出征兵士の見送り、戦勝祈願、勤労奉仕、防空演習、防諜、金属回収など、広範囲な活動が行われた。

編集メモ

平和学習(こども未来館学習)がスタートしました。先日、平和学習の途中で一人の児童が、「なんで戦争やしたん？」と真剣な顔つきで質問を投げかけてきました。この究極の質問、実は平和学習の中でよく出会います。平和学習を通して、空襲の被害や人々の苦しい生活などの戦争の現実に触れることで感じた素直な思いが口をついて出るのです。その思いは、平和や戦争について考えるきっかけとなります。子どもたちの心に平和を願う小さな火を灯すのは、平和記念館の大切な使命だと考えています。

たかまつミライエ

高松市平和記念館（たかまつミライエ５階）

開館時間：午前９時～午後５時（入館は午後４時 30 分まで）
休 館 日：火曜日（祝日の場合は翌日）、年末年始
入 館 料：無料
▼ホームページアドレス（平和啓発の推進事業がご覧いただけます）　▲QR コード
http://www.city.takamatsu.kagawa.jp/kurashi/shinotorikumi/jinken/keihatsu/heiwa/index.html

▶次回 81 号発行は、2021 年 10 月です。